



Special Olympics

2016年度 ルール変更 対照表

競技名: 自転車

変更前の内容	変更後の内容
	ルール変更対照表には、内容の変更があった箇所のみ記載しています。
セクションAー公式種目 これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。	2. 公式種目 基礎種目、個人種目やリレー種目を含むこれらの種目は、あらゆる能力の競技者に競技する機会を提供することを目的としている。
セクションBーコース 1. 40km種目では、これより長いコースでもよい。 2. 往復のコースや180度のターンのあるコースは、安全の確保がとても困難であり、使用すべきではない。	3. コース 3.1 レイアウト 3.1.2 40km 種目では、これより長いコースが推奨／許容される。 3.2 デザイン 3.2.2 往復のコースや 180 度のターンのあるコースは使用すべきではない。 3.2.4 コース要件に関する例外はテクニカル委員の同意によって認められる。 3.3 世界大会コース 3.3.1 5km 以下の種目では約 2.5km のコースが使用される。 3.3.2 5km より長い種目では 180 度のターンのない約 5km のコースが使用される。 3.3.3 上述した全ての要件は必須である。 3.3.4 コース要件に関する例外はテクニカル委員とサイクリング SRT の同意によって認められる。

セクションDー人員

1. テクニカルディレクター(国内の自転車競技連盟競技会経験があること)
2. 運営委員長
3. 競技委員長
4. 運営委員は、以下で構成される
 - a)テクニカルディレクター、b)競技会委員長、c)競技委員長
5. テクニカル委員会
6. スターター

7. 経験のある2名がエントリーナンバー、正しいナンバーの位置、車番の確認、ゼッケン、正しいスタート順について責任をもち確認する。コンピューターチップと登録選手の一致を確認する。
8. ホルダー(競技者が両足をペダルに置いたまま、まっすぐな姿勢を保てるようサポートをする。ホルダーはいかなる場合でもスタートラインから競技者を押しはならない。競技者が選択すれば、片足、もしくは両足を地面につけてスタートしてもよい)
9. 審判長(フィニッシュラインに立たなくてはならない)
10. 副審判長、もしくはタイムキーパーを補佐する役員(フィニッシュライン付近にいないといけない)
11. 自転車メカニックの公認ライセンスを持つ技術者、または資格を持っているサイクルショップのメカニックと適切で必要不可欠な工具
12. コース・マーシャル/係員(コース内の全ての交差点に立って競技者を誘導し、車や歩行者がコース内に入らないようにする)

5 人員

5.1 運営委員は、以下で構成される。

5.1.1 テクニカルディレクター

5.1.1.1 国内の自転車競技連盟競技会経験があること。

5.1.2 競技会委員長

5.1.3 審判長

5.2 その他の人員

5.2.1 テクニカル委員会(テクニカルディレクターへ報告する)

5.2.2 審判

5.2.2.1 スターターの役割を担う。

5.2.3 審判補佐

5.2.3.1 2名の審判補佐がエントリーナンバー、正しいナンバーの位置、車番の確認、ゼッケン、正しいスタート順について責任をもち確認する。コンピューターチップと登録選手の一致を確認する。

5.2.3.2 審判補佐は1人、ホルダーの役割を担う(競技者が両足をペダルに置いたまま、まっすぐな姿勢を保てるようサポートをする。ホルダーはいかなる場合でもスタートラインから競技者を押しはならない。競技者が選択すれば、片足、もしくは両足を地面につけてスタートしてもよい)

5.2.4 チーフジャッジ

5.2.4.1 フィニッシュラインに立たなくてはならない。

5.2.5 タイムキーパー

5.2.6 副審判長、もしくはタイムキーパーを補佐する役員(フィニッシュライン付近にいないといけない)。

5.2.7 自転車メカニック

5.2.7.1 自転車メカニックの公認ライセンスを持つ技術者、または適切で必要不可欠な工具を有する資格のあるサイクルショップのメカニックであること。

5.2.8 コース・マーシャル

5.2.8.1 マーシャルはコース内の全ての交差点に立って競技者を誘導し、車や歩行者が

<p>13. 適切な救急用具を持つ有資格の医療関係者</p>	<p>コース内に入らないようにする。</p> <p>5.2.9 有資格の医療関係者</p> <p>5.2.9.1 有資格の医療関係者は適切な救急用具を所持していること。</p>
<p>セクションEー競技ルール</p> <p>1. デイビジョニング</p> <p>スペシャルオリンピックスの自転車競技はいかなるレベルのアスリートでも参加できるようにする。アスリートはエントリータイムおよび、または予選イベントによってふさわしいデイビジョンに分けられる。</p>	<p>6. 競技ルール</p> <p>6.1 デイビジョニング</p> <p>6.1.1 レベル</p> <p>6.1.1.1 スペシャルオリンピックスの自転車競技はいかなるレベルの競技者でも参加できるようにする。以下 3 つのレベルで自転車の種目は実施される。</p> <p>6.1.1.1.1 短距離: 次の種目からなる: 500m タイムトライアル、1km タイムトライアル、2km タイムトライアル</p> <p>6.1.1.1.2 中距離: 次の種目からなる: 1km タイムトライアル、2km タイムトライアル、5km タイムトライアル、5km ロードレース</p> <p>6.1.1.1.3 長距離: 次の種目からなる: 5km タイムトライアル又はロードレース、10km タイムトライアル又はロードレース、15km タイムトライアル又はロードレース、25km タイムトライアル又はロードレース、40km タイムトライアル又はロードレース</p> <p>6.1.1.2 競技者はエントリータイムおよび、または予選記録に基づき、ふさわしいデイビジョンに分けられる。地域の競技会、地区競技会、リージョンや世界大会は様々な種目で参加標準記録を自由に設定することができる。短距離や中距離種目では、最速記録を参加標準記録として要件設定することはできない。短距離・中距離種目における標準記録は、より速いタイムを提示することのできる競技者がその種目へ参加することを許可しないために設定される。しかしながら、40km ロードレースに関しては、それが適切である場合に、最速記録を基準として設定することが推奨／許可される。</p> <p>6.1.1.2.1 短距離種目の最遅速標準記録は以</p>

	<p>下の通りです</p> <ul style="list-style-type: none">6.1.1.2.1.1 500m(男子) 1:00～2:00 分6.1.1.2.1.2 500m(女子) 1:05～2:10 分6.1.1.2.1.3 1km(男子) 2:00～3:00 分6.1.1.2.1.4 1km(女子) 2:00～3:00 分 <p>6.1.1.2.2 40km ロードレースの最速標準記録は以下の通りです</p> <ul style="list-style-type: none">6.1.1.2.2.1 男子 1 時間 20 分6.1.1.2.2.2 女子 1 時間 30 分6.1.1.2.2.3 このタイムはコースやコースタイム、気象状況によって、テクニカル委員が調整する。 <p>6.1.1.2.3 競技者のディビジョニングにおけるタイムが、自分が参加する種目の条件に合わない場合、審判長とテクニカル委員の判断によって他の種目に変更することがある。</p> <p>6.1.1.2.4 コーチは可能なら競技の前にエントリーの変更を届け出る。 (注：競技者が出場する種目の参加標準記録に注意するのはコーチの責任である)</p> <p>6.1.1.2.5 世界大会でのエントリー：世界大会、大陸別大会、リージョン大会、全国大会のいずれかにおいて、短距離種目において、最遅速標準タイムより速い記録を出したことのある競技者は、予選でのタイムに関わらず、中距離種目へ変更される。</p> <p>6.1.2 予選ロードレースはアスリートの自転車競技能力を決定するために行われ、結果的には、競技会で適切なディビジョンに配置するためである。</p> <p>6.1.2.1 タイムトライアルとロードレースの両方に出場する競技者は、時間の制約や審判長とテクニカル委員の判断により、両方のディビジョニング・レースに出場する。</p> <p>6.1.6 主催者は、ロードレースにおいて、同時に複数</p>
--	--

	<p>のディビジョンをレースさせることについて審判長とテクニカル委員の同意をもって許可される。競技者の表彰は別々に行われる。テクニカル委員と審判長の許可が無い限り、一度のロードレースでの競技者の合計人数は 16 人以上としないこと。</p> <p>6.1.6.1 テクニカル委員は、運営委員長と競技委員長と共に、競技者をディビジョンごとに分けるためのもっとも効果的な方法を決定する。そのためには、競技者が誰と競技しているのか分かるようにし、さらに競技役員と観客にとっては誰が異なるディビジョンにいるのかを見て簡単に分かるようにする必要がある。</p> <p>6.1.6.2 異なる複数のディビジョンを一度にレースするためには、ヘルメットに大きめの色シール、レース番号などをつける必要がある。色のアームバンドは、アームバンドの種類や、ちゃんと固定されていて、レース中に競技者の手首に落ちないかによって使用が検討される。これは望ましい方法ではない。(注：“接触”が問題となる競技者にとっては、アームバンドの使用は選択肢にならない)</p> <p>6.1.6.3 競技者はディビジョンごとに並ぶことで、視覚的に誰と同じディビジョンでレースするのが理解できるようにする。</p> <p>6.1.6.4 ヘルメットカバーは通気が悪く、ヘルメットの形やサイズに種類が多様ではないため使用は控える。</p>
--	--